結核性胸膜炎における胸水アデノシンデアミナーゼ2

¹ 稲瀬 直彦 ¹ 富永慎一郎 ¹ 安井 牧人 ¹ 塚田 義一 ¹ 大河内 稔 ² 三浦溥太郎

要旨: [目的] 結核性胸膜炎の診断における胸水アデノシンデアミナーゼ2 (ADA2) の有用性について検討した。[対象] 胸水が採取されたのは100例 (男78例, 女22例) で漏出性胸水が18例, 滲出性胸水が82例であった。滲出性胸水の内訳は結核性胸膜炎9例, 肺癌27例, 胸膜中皮腫8例, 肺癌および胸膜中皮腫以外の悪性腫瘍5例, 良性石綿胸水5例, 膿胸10例, 肺炎随伴性胸膜炎10例, SLE1例, 寄生虫感染1例であり,6例は原因不明のため対象から除外した。[結果] 結核性胸膜炎における胸水アデノシンデアミナーゼ (ADA) 値は90.4 ± 22.4 U/l (平均 ± 標準偏差), 胸水 ADA2 値は80.4 ± 21.9 U/lであり,いずれも結核性胸膜炎以外の滲出性胸水と比較して有意に高値を示した。また結核性胸膜炎における検査法として胸水 ADA は感度100%・特異度88%であり,ADA2は感度100%・特異度91%であった。[結論] 胸水 ADA2 は結核性胸膜炎の診断において有用であり,胸水 ADA と比較して同様の感度と若干良好な特異度を示した。

キーワーズ:結核性胸膜炎、アデノシンデアミナーゼ2、胸水、ADA、ADA2

緒言

結核性胸膜炎の診断において胸水から結核菌を同定することは困難であり、PCR法を用いても検出感度は十分でない。一般に胸水アデノシンデアミナーゼ(ADA)高値により結核性胸膜炎と診断される場合も多いと思われるが、偽陰性例や偽陽性例もあり胸水 ADA は結核性胸膜炎の診断法として限界がある。

ADAのアイソザイムであるアデノシンデアミナーゼ2 (ADA2) は結核性胸膜炎において特異的に高値を示すと報告されているが1)~3), 検査法として普及していない。結核性胸膜炎の診断における胸水 ADA2の有用性について明らかにするために胸水貯留症例について検討した。

対 象

対象は2003年12月から2004年11月までの1年間に横 須賀共済病院内科の外来および病棟で胸水が採取された 100例で、内訳は男78例、女22例、年齢は36~91歳(平 均69歳) であった。

漏出性胸水の基準を、①胸水タンパクが血清タンパク の0.5以下, ②胸水 LDH が血清 LDH の0.6以下, ③胸水 LDHが血清 LDH正常上限値の2/3以下,をすべて満た すこととし、他は滲出性胸水と定義した4。結核性胸膜 炎の診断は、①胸水から結核菌が培養あるいは PCR法 で同定される、②胸膜生検で乾酪性類上皮細胞肉芽腫を 認める, ③リンパ球優位の滲出性胸水で結核以外の疾患 が否定され、結核に対する標準治療による臨床所見の明 らかな改善など結核性胸膜炎に合致する経過を12カ月 以上確認された場合、のいずれかとした。肺癌や胸膜中 皮腫、他の悪性腫瘍による癌性胸膜炎 (悪性胸水) の診 断は胸水細胞診で悪性細胞が確認されたものとした。良 性石綿胸水の診断は、①石綿曝露歴がある、②他の疾患 が否定される, ③胸部 CT で詳細な経過観察が 1 年以上 されていることとした50。膿胸の診断は胸水が明らかに 膿状で胸水 pH が 7.0 未満とした。肺炎随伴性胸膜炎の 診断は胸水貯留側に併発する細菌性肺炎が存在し好中球 優位の胸水を認めることとした。

¹横須賀共済病院内科,2横須賀市立うわまち病院呼吸器科

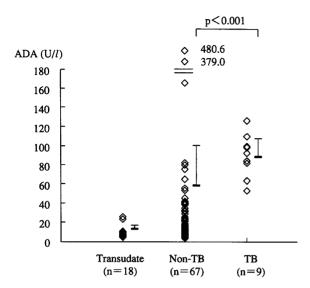


Fig. 1 Adenosine dearninase (ADA) in pleural effusion Non-TB: non-tuberculous exudate; TB: tuberculous exudate. Mean+SD are shown with bars. ADA is higher in tuberculous exudates than in non-tuberculous exudate (p < 0.001).

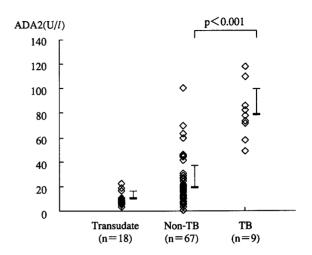


Fig. 2 Adenosine dearminase 2 (ADA2) in pleural effusion Non-TB: non-tuberculous exudate; TB: tuberculous exudate. Mean+SD are shown with bars. ADA2 is higher in tuberculous exudates than in non-tuberculous exudate (p < 0.001).

Table 1 Cases of tuberculous pleuritis

Case	Age	Sex	ADA (U/l)	ADA1 (U/ <i>l</i>)	ADA2 (U/ <i>l</i>)	ADA2% (%)
1	83	M	54.0	4.6	49.4	91
2	49	M	92.5	6.2	86.3	93
3	55	M	99.0	21.3	77.7	78
4	79	M	84.6	2.4	82.2	97
5	65	M	83.1	10.1	73.0	88
6	56	M	99.5	29.1	70.4	71
7	49	F	109.9	0.7	109.2	99
8	36	F	63.6	5.4	58.2	92
9	80	M	127.0	10.0	117.0	92

ADA: adenosine deaminase 1 ADA2: adenosine deaminase 2 ADA2%: ADA2 × 100/ADA

胸水 ADA活性値は酵素比色法によるキット(ビアンコーレ ADA, TOYOBO)を用いて測定し、ADA2活性値はアデノシンデアミナーゼ1(ADA1)阻害薬であるerythro-9-(2-hydroxy-3-nony1) adenineを使用して測定した。統計処理においては、2 群間の平均値の差の比較を Cochran-Cox および Welch の検定により評価した。

結 果

胸水の性状は漏出性胸水が18例, 滲出性胸水が82例であった。滲出性胸水の原疾患は結核性胸膜炎9例, 肺癌27例, 胸膜中皮腫8例, 肺癌および胸膜中皮腫以外の悪性腫瘍5例, 良性石綿胸水5例, 膿胸10例, 肺炎随伴性胸膜炎10例, SLE1例, 寄生虫感染1例であり, 6例は原因不明のため今回の検討対象から除外した。

胸水 ADA値は漏出性胸水で11.5±6.2 U/l (平均±標準偏差). 滲出性胸水では結核性胸膜炎以外で39.5±

73.9 U/l, 結核性胸膜炎で90.4±22.4 U/lであった (Fig. 1)。また滲出性胸水の ADA の平均値の比較では、結核性胸膜炎以外と比較して結核性胸膜炎において有意に高値を示した (p<0.001)。一方、胸水 ADA2値は漏出性胸水で9.4±5.2 U/l, 滲出性胸水では結核性胸膜炎以外で20.4±16.6 U/l, 結核性胸膜炎で80.4±21.9 U/lであった (Fig. 2)。滲出性胸水の ADA2 の平均値の比較では、ADA と同様に結核性胸膜炎において結核性胸膜炎以外と比較して有意に高値を示した (p<0.001)。

結核性胸膜炎の9例 (男7例,女2例,年齢は36~83歳で平均61歳)の内訳を Table 1に示した。結核性胸膜炎における ADA および ADA2のカットオフ値をそれぞれ47 U/lと40 U/lに設定した場合 $^{\circ}$,全例 ADAと ADA2がカットオフ値を上回り、また ADAにおける ADA2の割合 (ADA2%)が70%以上と ADA2が ADA1 に比して優位であった。今回検討した94例を対象とし

Case	Age	Sex	Diagnosis	ADA (U/l)	ADA1 (U/ <i>l</i>)	ADA2 (U/ <i>l</i>)	ADA2% (%)
1	57	M	Para-p	55.5	33.3	22.2	40
2	21	M	Para-p	82.6	19.5	63.1	76
3	63	M	Mesothelioma	79.8	9.6	70.2	88
4	77	M	Mesothelioma	74.5	14.5	60.0	80
5	75	M	Empyema	480.6	380.6	100.0	20
6	38	F	Empyema	82.4	36.4	46.0	56
7	50	M	Empyema	379.0	334.0	45.0	12
8	84	M	Empyema	65.0	38.8	26.2	40
9	80	M	Para-p	52.8	10.5	42.3	80
10	74	F	Empyema	166.0	122.0	44.0	27

Table 2 Cases of non-tuberculous exudate with elevated ADA

ADA: adenosine deaminase ADA1: adenosine deaminase 1 ADA2: adenosine deaminase 2

ADA2%: ADA2 × 100/ADA Para-p: parapneumonic effusion

た場合,胸水 ADA は結核性胸膜炎における診断法として感度 100%・特異度 88% であり,胸水 ADA2 は感度 100%・特異度 91% であった。

非結核性の渗出性胸水を認めた67例のうち、胸水ADAが高値を示したのが10例であり、原因疾患の内訳は肺炎随伴性胸膜炎3例、胸膜中皮腫2例、膿胸5例であった(Table 2)。このうち2例(肺炎随伴性胸膜炎と膿胸症例)はADA2が40U/l以下で正常であり、胸水ADA2を測定することにより結核性胸膜炎から鑑別できる症例の存在が示された。またADA高値を示す膿胸の5例中4例がADA1優位(ADA2が50%以下)であり、ADA2優位である結核性胸膜炎とは異なるパターンであった。一方ADA高値を示す胸膜中皮腫2例はADA2優位であり、ADAアイソザイムに関しては結核性胸膜炎と類似のパターンを示していた。

老 窓

結核性胸膜炎の診断法として胸水 ADA2は感度 100%・特異度91%であり、胸水 ADA (総 ADA, ADA1 +ADA2を反映している)と比較して、感度は同様で特 異度が若干(3%)良好という結果となった。この結果 の評価として胸水 ADA2まで測定しなくても ADA のみ で十分とも考えられるが、ADA2の測定が鑑別診断にお いて有用であった症例について検討してみたい。今回は ADAの偽陽性例 (結核性胸膜炎ではないが胸水 ADAが 高値である症例) が10例で、そのうち ADA2が正常で あったのが肺炎随伴性胸膜炎1例と膿胸1例であり、こ の2例についてはADA2測定が診断に寄与したといえ る。一般に膿胸は胸水の性状や pH などから診断が比較 的容易と思われるが、胸膜中皮腫は胸水所見から結核性 胸膜炎との鑑別が時に困難と思われる。胸膜中皮腫は早 期診断が特に重要であるが、胸水 ADA 高値より結核性 胸膜炎と誤診され抗結核薬の投与を受けながら経過観察

される危険を念頭におくべきと思われるか。

ところで ADA の由来であるが、ADAには2つのアイソザイムが存在し⁸⁾、ADA1 は扁桃、脾臓、甲状腺、卵管、脳などの幅広い組織中に分布する。ADA2 は血清中ではADA1 より優位であり、リンパ球や単球より産生される。T細胞性白血病や伝染性単核球症などではADA2活性が上昇するが、これらはT細胞系リンパ球由来と考えられる。一方、胸水中のADA2の由来は十分に研究されていない。結核性胸膜炎と同様に胸水においてADA2優位を示す胸膜中皮腫においては胸水中のマクロファージ数と胸水 ADAが正の相関を示すと報告されており⁹⁾、胸水においてADA2が単球由来であることを示唆する知見と考えられる。結核性胸膜炎の病態や発症機序におけるADA2の関連については、今後の検討が必要と思われる。

浜 虓

胸水 ADA およびアイソザイムの測定に関してご協力いただいた横須賀共済病院検査科の木村孝司氏と藍田仁史氏に深謝いたします。本論文の要旨は第80回日本結核病学会総会で発表した。

1 文 献

- Ungerer JPJ, Oosthuizen HM, Retief JH, et al.: Significance of adenosine deaminase activity and its isoenzymes in tuberculous effusions. Chest. 1994; 106: 33-37.
- 2) Valdes L, Jose ES, Alvarez D, et al.: Adenosine deaminase (ADA) isoenzyme analysis in pleural effusions: diagnostic role, and relevance to the origin of increased ADA in tuberculous pleurisy. Eur Respir J. 1996; 9: 747-751.
- 3) 倉田 正, 鬼原道夫. 重田英夫, 他: 胸水中 Adenosine Deaminase (ADA) 活性とそのアイソザイム. 臨床病 理. 1987;15:192-196.
- 4) Light RW, MacGregor MI, Luchsinger PC, et al.: Pleural effusions: the diagnostic separation of transudates and exu-

- dates. Ann Intern Med. 1972; 77: 507-513.
- 5) Hillerdal G, Ozesmi M: Benign asbestos pleural effusion:
 73 exudates in 60 patients. Eur J Respir Dis. 1987; 71: 113
 -121.
- 6) Valdes L, Alvarez D, Jose ES, et al.: Tuberculous pleurisy.
 A study of 254 patients. Arch Intern Med. 1998; 158: 2017
 -2021
- 7) 三浦溥太郎:中皮腫―臨床. 「職業性石綿曝露と石綿 関連疾患―基礎知識と労災補償」. 森永謙二編. 三信図

書, 東京, 2005, 186.

- 8) Akedo H, Nishihara H, Shinkai K, et al.: Multiple forms of adenosine deaminase. I. Purification and characterization of two molecular species. Biochim Biophys Acta. 1972; 276: 257-271.
- 9) 塚田義一, 清水 孝, 高際 淳, 他: 悪性胸膜中皮腫 における胸水 Adenosine deaminase と Macrophageの関 連性についての検討. 日本胸疾会誌. 1995; 33: 335.

 Original Article	
 Original Article	

ADENOSINE DEAMINASE 2 IN THE DIAGNOSIS OF TUBERCULOUS PLEURITIS

¹Naohiko INASE, ¹Shinichirou TOMINAGA, ¹Makito YASUI, ¹Yoshikazu TSUKADA, ¹Minoru OUKOUCHI, and ²Hirotarou MIURA

Abstract [Purpose] We examined the usefulness of adenosine deaminase 2 (ADA2) in the diagnosis of tuberculous pleuritis.

[Subjects] A hundred cases, 78 male and 22 female, with pleural effusion were examined. With regard to pleural effusion, 18 cases were transudate and 82 cases (9 tuberculous pleuritis, 27 lung cancer, 8 mesothelioma, 5 malignant diseases except lung cancer and mesothelioma, 5 benign asbestos pleurisy, 10 empyema, 10 parapneumonic effusion, one SLE, one parasitic infection, and 6 undetermined etiology) were exudates. The last 6 cases with unknown origin were excluded in this study.

[Results] Pleural adenosine deaminase (ADA) was $90.4 \pm 22.4 \text{ U/l}$ (mean \pm SD) and pleural ADA2 was $80.4 \pm 21.9 \text{ U/l}$ in tuberculous pleuritis, both were significantly higher than those in non-tuberculous exudates (p < 0.001). In the diagnosis of tuberculous pleuritis, pleural ADA showed 100%

sensitivity and 88% specificity, whereas pleural ADA2 showed 100% sensitivity and 91% specificity.

[Conclusion] Pleural ADA2 is useful in the diagnosis of tuberculous pleuritis, which has similar sensitivity and a little better specificity compared with pleural ADA.

Key words: Tuberculous pleuritis, Adenosine deaminase 2, Pleural effusions, ADA, ADA2

¹Department of Internal Medicine, Yokosuka Kyosai Hospital, ²Department of Respiratory Medicine, Yokosuka Municipal Uwamachi Hospital

Correspondence to: Naohiko Inase, Department of Internal Medicine, Yokosuka Kyosai Hospital, 1–16, Yonegahamadori, Yokosuka-shi, Kanagawa 238–8558 Japan.

(E-mail: inase@ykh.gr.jp)